



令和6年度 高雄日本人学校

愛河

校訓 「高雄の子ども」 たくましい子 考える子 思いやりのある子



学校だより 12月号

令和6年 11月29日

文責 校長 堀山 知基

## 体験的な学びを深めた 11月

厳しい残暑が続いた台湾・高雄市でしたが、12月に差し掛かり、やっと朝晩は肌寒さを感じる時期となりました。日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、11月は各学年において多くの校外学習や交流会が実施されました。これらの体験活動は、実施する目的や意義があり、文部科学省においてもその意義について以下のような基本的な考え方を示しています。

### 体験活動の意義

- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| (1) 現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上 | (5) 自己との出会いと成就感や自尊感情の獲得 |
| (2) 問題発見や問題解決能力の育成          | (6) 社会性や共に生きる力の育成       |
| (3) 思考や理解の基盤づくり             | (7) 豊かな人間性や価値観の形成       |
| (4) 教科等の「知」の総合化と実践化         | (8) 基礎的な体力や心身の健康の保持増進   |

【第15期中央教育審議会第1次答申から】

つまり、体験活動を実施する際には、児童生徒のどのような資質、能力の向上を図り、何を学ばせるかの「ねらい」をしっかりと定めることが重要であり、本校においても、この「ねらい」を明確にして体験活動を実施しています。そして、そこで得られた経験をもとに、児童生徒が見聞したことに対する自分の考えをまとめたり、学んだことを整理し発信したりするといった事後活動に結び付けています。これらのことは、高雄日本人学校経営方針（グラントデザイン）においても、「地域や社会と関わる体験的な活動を、系統的・計画的に実施する。」「台湾の文化や歴史に触れる機会を意図的・計画的に設定する。」「現地校との交流活動を学年の発達段階に応じ、ねらいを明確にして実施する。」と明記しており、本校においても体験活動を重視しているところです。

その一方で、現在の情報通信技術の飛躍的な発達により、インターネットやテレビなどの媒体を通して感覚的に学ぶ「間接体験」や、VR（バーチャルリアリティ）など、まるで現実であるかのように体験できる「疑似体験」などが、身の回りにますます増えてきています。しかしながら、実際に手に触れる、肌で感じる、匂いを感じる、といった「直接体験」は、子供たちの豊かな成長のためには不可欠であると考えます。幸いなことに、本校においては、この11月の体験活動のように、各学年の教科に関する内容だけでなく、台湾の文化・歴史・伝統にも直接ふれることができる特色ある体験活動を実施することができています。これは、本校の教育活動の大きな魅力の一つでもあります。

今後も、本校において「ねらい」を明確にした学習の意義ある体験活動を推進し、児童生徒の確かな学力・豊かな心の育成に努めてまいります。保護者の皆様には活動の支援をお願いすることもあります。今後とも引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。



11/21 屏東大学との交流会の様子(中学部)

**御 礼** この度、高橋 政博 様のご尽力により、達成聚化股份有限公司 様から本校に対し、今回を含め3年間継続して 50,000 元の寄付金が贈与されました。この寄付金は、本校の教育活動のさらなる充実のために、教材備品や学習消耗品の予算として活用させていただきます。高橋 政博 様、達成聚化股份有限公司 様に心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。